

第6回 最高段位五段認定会 2018 in 東京 開催報告

渉外広報部 谷端淳一郎



浅草寺(正面奥の建物が台東区会館)

今回で6回目となる五段位認定・本審査会が東京都台東区民会館で開催されました。東京都で開催されるのは昨年に引き続いて2回目で、会場となった台東区民会館は、国内外からの観光客で賑わう浅草寺のすぐ近くに位置しています。

段位認定会を基幹事業とする全麺協は、一般社団法人化によって社会的な位置付けが向上しています。最高段位認定会と位置付けられている五段位認定会を東京で開催することは、2020東京オリンピック・パラリンピックにおけるそば普及活動

など、今後の全麺協発展に向けて大きなステップになるものです。開会式には、日麺連の田中会長、丸川珠代参議院議員に列席いただき、祝辞と受験者への激励のごあいさつをいただきました。

1, 期 日 : 平成30年11月10日(土)・11日(日)

2, 会 場 : 東京都台東区 台東区民会館 9階(技能審査:ホール、意見発表審査:特別会議室)

3, 主 管 : 五段位認定会・本審査会実行委員会 (東京都内および周辺的全麺協会員6団体)

4, 後 援 : 東京都台東区、(一社)日麺連、(一社)日本蕎麦協会、(一社)和食文化国民会議

5, 審査員 : 技能審査 特任審査員 : 鵜飼良平

全国審査員 : 板倉敏和、藤間英雄、山本良明、横田節子

意見発表審査 全麺協 理事長 中谷信一、副理事長 山本 剛、専務理事 加藤 憲

松陰大学教授 古賀 学、全麺協理事 谷端淳一郎

6, 認定者(名簿順) : 関崎泰博(北斗蕎麦打ち倶楽部)、石川明秀(NPO法人そばネット埼玉)、三村幸彦(NPO法人信州そばアカデミー)、坂井 修(北斗蕎麦打ち倶楽部)、藤田ルツ(江戸流手打ち蕎麦 鵜の会)、小山周三(NPO法人そばネット埼玉)、田多井俊夫(NPO法人信州そばアカデミー)、平松一馬(全十勝手打ち蕎麦推進協議会)、塚越 智(いしかり手打ちそば同好会)、北崎サエ子(平尾台手打ちそば倶楽部)、萩原敏彦(さいたま蕎麦打ち倶楽部)、佐藤靖子(奈井江手打ちそば道光会)、山中敏章(NPO法人泉北そば打ち普及の会)、星川茂生(道南ブロック手打ちそば推進協議会)、谷 昇平(江戸流手打ち蕎麦 鵜の会)、小野マサル(江戸流手打ち蕎麦 鵜合之衆)、米田隆一(NPO法人泉北そば打ち普及の会)、青山 豊(やつおそば大楽)、北野仁美(富山そば研究会)、穂山和久(彩蕎一門会)、多田貴子(西宮そば打ち同好会)、縄田陽子(そば打ち倶楽部 絆) 計 22 名

7, 開催を終えて

第6回 五段位認定・本審査会には、「一次審査」「筆記試験」を通過した50名が受験しました。「一次審査」「筆記試験」の受験システム改善を一層進めながら、毎年開催に向けた準備を行なう必要があります。当初は五段位認定・本審査会は「全麺協発祥の地」富山県利賀村で開催されて来ましたが、今後は受験者の利便性、受験受入れ体制、全麺協発展の方向などを考慮すると、東京都での開催が主になって行きます。また、五段位認定者数は今回の認定者を加えると百名を超え、全麺協組織の中枢を担うとともに、そば活用の社会貢献活動が求められます。

最後になりましたが、五段位認定・本審査会開催に向けて、きめ細やかな準備と対応を行なっていただいた実行委員会のご尽力に、この場をお借りして心から厚くお礼申し上げます(閉会式では、中谷理事長から実行委員会に感謝状を贈呈して、感謝の意を表しました)。

— 第6回 最高段位五段認定会 2018 in 東京スナップ写真 —



台東区民会館



開会式(理事長あいさつ)



開会式(実行委員長あいさつ)



開会式(丸川先生あいさつ)



意見発表審査



技能審査



閉会式(技能審査講評)



認定書授与

第6回 平成30年度 五段位認定・本審査会 全体総括講評

本日は、五段位に合格された方誠にありがとうございます。心からお喜び申し上げます。

残念ながら今回は合格できなかった皆さん方は、いずれの方も今一步ということでありました。今回は良い経験をしたと思いつつ、捲土重来を期して次回の五段位認定会では合格されますように再挑戦して下さい。

さて、全麵協は平成26年5月1日に一般社団法人全麵協として法人化して、本年で満5年が経過いたしました。この間、皆さん方のご協力によって段位認定制度も充実強化され、本日合格された方を含めて最高段位五段位認定者が100名を超えて、誠に心強く思います。今後もこの五段位認定者が中心となって、全麵協の発展にご尽力下さいますよう期待しております。

本年は5月に五段位認定会「一次審査」、8月に東京都千代田区において「筆記試験」、そして今回この東京都台東区において「本審査」を実施しましたが、皆さん方にとって大変なご苦労があったことと存じます。事務担当者いたしましたは、皆さん方が気持ち良くまた悔いを残すことのないようにと一生懸命準備に取り組みましたので、受験者の皆さんと同様に私たち段位認定部と五段位認定会専門チームにとりましても大変な苦労があました。本日このようにして、無事に認定会を終えることが出来まして、本当に良かったと思っているところであり、関係者の皆さん方に心から感謝申し上げます。

それでは、一次審査から本日の本審査までの、全体的な総括講評を行ないたいと思います。まず「一次審査」ですが、ここで詳しくは触れませんが、先ほども申し上げた通り五段位認定者は全麵協で実施される最高段位であります。全麵協は法人化されて社会的にも高い評価をいただいている反面、その責任も重くなっているところでもあります。そしてこの全麵協という組織を持続可能な組織として存続させるためには、最高段位五段位認定者が未来を見据えてより積極的にそばの普及や地域振興、社会貢献活動を推進していただくことに尽きるものと思います。そのような自覚を持ってもらいたいという意味から、「一般社団法人全麵協の10年後を見据えた時、今なすべきことはどのようなことがありますか」という課題を設定して小論文で論じていただきました。多くの受験者はこの課題の趣旨を的確にとらえられて、それぞれの考え方を吐露していただきまして、今後の全麵協運営に大きな参考になった論文もあり、大変に未来が開けたと感じました。ただ一部の方には、そば打ち技術が上手くなればそれだけでいいのではないかという内容もあり、全麵協の組織と目的を正しく理解されていないと思われる記述もありました。少なくとも最高段位の五段位を目指す方は、全麵協の目的を正しく理解する共に、持続可能な組織にして行くために自分自身がどう関わっていくかということを感じていただきたいと感じました。

次に「筆記試験」についてです。今回は第6回目の五段位認定会でしたので、過去5回の筆記試験によって出題傾向や勉強のポイントが良く分ったのではないかと思います。歴史・文化、品種・栽培、栄養・健康の科目については、五段位認定者としては常識的に知っておいていただかなくてはならないことを出題したことから皆さん方は良くできていて、高得点の方も数多くおられて大変頼もしく感じました。ただ肝心の全麵協・段位認定制度の科目については、相変わらず理解不足の人が多く残念でありました。特に今回は、一般社団法人全麵協となった法人ですので、安定的な財政運営を図るための収益事業にはどのようなものがあるか、段位認定制度による受験料、認定料はどうなっているのか、全麵協本部の組織はどう改正されたのかなど、基本的な事項についての出題でありました。

五段位認定者は、組織の最高段位であり要に居るわけですので自分が所属している全麵協についての根幹部分には、平素から十分に関心を持っていただきたいと思います。

次いで、「技能審査」についてであります。少し粗挽きの粉であります。第1回、第2回、第3回の五段位認定会の時に使用した粉に比べると、難易度は少し易しかったのではないかと思います。このため、さすが五段位を目指す方たちですので素晴らしい技術を発揮された方が多くて、大変頼もしく感じました。鵜飼審査委員長の講評でも述べられておりますので、私からは詳しくは申し上げませんが、加水に失敗した人、延しで割れや破れが入ってしまった人、延し不足だった人、切りカスが多く出た人等もおりましたので、この辺については厳しく審査されたものと思います。

今までのそば打ちである二八そばのように小麦粉のグルテンによるつながりではなく、五段位認定会はそば粉100%であり、そば粉のたんぱく質によるつながりを利用するものでありますので、より丁寧で慎重なそばの打ち方が求められる訳であります。それから、五段位のそば打ち技能は単に時間内にある程度のそばが打ち上がるというものだけではなく、打つ姿勢に品格があり、堂々としていて気品を醸し出すような打ち方が求められているのであります。従いまして、今後はこのようなことについても、十二分に配慮していただきたいと思います。

最後に「意見発表審査」ですが、五段位認定者は色々な場面において全麵協を代表してそば打ちに関しての解説やそばの知識、歴史、文化、健康、栄養、そして全麵協の組織、素人そば打ち段位認定制度について説明する役割があります。このためには、人前でスムーズに話すことができる能力が必要です。このような意味合いで、この審査を実施している訳です。受験者の皆さん方はこの趣旨を良く理解され、訓練されてきていることが十分窺うことが出来ました。

もとより、このようなことを得意とする人と苦手だという人がいることは承知しています。しかし、自分は何を伝えたいのかを要領良く述べることや、その人の誠実さ、真剣さが伝わってくるのが大切であり、これらを加味して採点されたものと思います。詳しいことについては、先ほど審査委員長の中谷理事長から講評があった通りであります。

今まで申し上げてきましたが、五段位認定者は今後の全麵協運営にとって、大変重要な役割を担ってもらわなくてはなりません。その意味から、特に今回五段位の認定を受けた方には、平成31年5月頃に「五段位認定者研修会」を富山県において開催することを計画しておりますので、是非とも参加されますようお願い申し上げます。どうかこのようなことに関心を持っていただき、五段位に合格された方はその先導者となって全麵協の発展のためにご尽力いただきたいのであります。また、惜しくも合格ではできなかった方も今回の結果にめげずに、さらに精進を重ね再度挑戦していただくよう切にお願い申し上げます。

終わりに当たりまして、この認定会に昨年来よりご尽力いただきました、現地東日本支部東京都内の全麵協会員6団体のスタッフの皆さん方、実行委員会の皆さん方に心から感謝を申し上げますと共に、昨日から本日まで長時間にわたって審査に当たられた審査員の皆さん方に心から御礼を申し上げます。誠に有難うございました。

(平成30年度 素人蕎麦打ち段位認定制度・最高段位五段認定会 実施本部)